

# 主任コラム11月号

主任 澤井 良子

11月になり、寒暖差が激しくなってきました。体調面に気をつけながら日々子ども達と関わっていききたいと思います。

6月から始まった各クラスの保育参加ですが、10月末をもって無事に終わることができました。保護者の方には、たくさんご参加頂きありがとうございました。保育に入って頂く中で、お子さんのクラスの雰囲気や、生活の流れ、給食の量、保育士や友達との関わり方などが見ていただけたのではないかと思います。たくさん感想や気付かれたことなどもお聞きすることができました。頂いた感想をもとに、来年度の保育参加がよりよいものになっていくようにしていきたいと思っています。ご協力ありがとうございました。

今、年長児がお手伝い保育に行っていることは先月号でも書かせて頂きましたが、0・1歳児クラスのお手伝いでは、活動選択の時に（0・1歳児クラスでの活動も年長児自身が選びます）ただ自分が行きたい活動を選ぶのではなく、「ここ、だれもお手伝いに行っていないから僕行くわ」と一緒に来ていた年長児に伝える姿や、おやつなどの場面では、コップを一人で持って飲むことが出来ない子に「飲む？持っていていい？」などを0歳児の目を見て言葉を掛け、0歳児がその姿に対してうなずくという姿がみられました。（言葉がでない小さい子の人の思いに気付く＝人と自分は思いが違う＝多様性の社会）そして、西の広場での活動では、自分の遊びを優先させるのではなく、小さい子に付いて目線を合わせて危険やトラブルが起きないように関わっている姿をみると年長児が4月の頃に比べて、成長したことや、誰かの役に立つ（貢献する）ことの喜びを感じとってくれているのではないかなと感じます。それは、ただ、年長児だけが成長したのではなく、0・1歳児クラスの保育士も心から「助かったよ。ありがとう。年長さんが来てくれるのを待っていたよ」という言葉を掛けてもらったことや、異年齢の担任保育士も年長児を信じて、お手伝い保育へと送りだしてあげたからではないかなと私は感じています。

年長児は他にも、布団敷き当番（年少・年中児の午睡布団を敷く）や、給食当番（セミバイキングのご飯やおかずの量を盛り付けたり、果物の個数を取り分けたり、掃除もします）、お片付け当番などがありますが、その中でも給食当番は、1週間自分達で話し合い表に書いて役割を決めています。自分の仕事に責任を持つことや、表に名前を書くことで自然と文字書きにも興味を持てるようになってきたようにも思います。日々の保育の中で、自分が出来ないことに劣等感を抱くのではなく、3・4・5歳児の36カ月の発達の中で一人ひとりが自分に自信が持てるように保育し、個々の発達を理解できるように目の前にいる子ども達をよく見て理解するというを私たちは保育士として、みていかなければならないと思っています。

11月2日には運動会があります。それぞれの年齢の発達や、日々の保育の中で取り入れている5領域の中の「健康」「表現」を見ていただけたらと思います。宜しくお願い致します。

